

平成 25 年度 事業計画

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

I 公益目的事業

[公 1 コンクリートに関する調査研究事業]

1. 調査研究事業

(1) 研究委員会所管の委員会

(A) 平成 25 年度継続する専門研究委員会

- 1) ASR 診断の現状とあるべき姿研究委員会 (平成 23-25 年度)
- 2) コンクリート分野における海水の有効利用に関する研究委員会 (平成 24-25 年度)
- 3) コンクリート工学分野における研究史の編纂と研究手法の体系化研究委員会
(平成 24-25 年度)
- 4) コンクリートのトレーサビリティ確保技術に関する研究委員会 (平成 24-25 年度)
- 5) 放射性物質の封じ込めとコンクリート材料の安全利用調査研究委員会
(平成 24-25 年度)

- 6) コンクリート構造物のインフラドック構築フェージビリティ調査研究委員会
(平成 24-26 年度)
- 7) フライアッシュと細骨材を事前混合したコンクリート用材料の品質基準および使用方法に関する研究委員会 (平成 24-26 年度)

(B) 平成 25 年度新規の研究専門委員会

- 1) 性能設計対応型ポーラスコンクリートの施工標準と品質保証体制の確立研究委員会
(平成 25-26 年度)
- 2) 混和材を大量使用したコンクリートのアジア地域における有効利用に関する研究
委員会 (平成 25-26 年度)
- 3) コンクリートの技術基準に関する情報活用手法研究委員会 (平成 25-26 年度)
- 4) 物理化学的解釈に基づく電気化学的計測手法の体系化に関する研究委員会
(平成 25-26 年度)

(2) 技術委員会所管の委員会

- 1) コンクリート基本技術調査委員会 (平成 24-25 年度)
- 2) マスコンクリートソフト作成委員会 (平成 25-26 年度)
- 3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会

- (平成 24-25 年度)
- 4) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂調査委員会 (平成 24-25 年度)
- 5) 既存コンクリート構造物の性能評価指針作成委員会 (平成 25 年度)
- 6) サステナビリティ委員会 (平成 24-25 年度)

(3) 支部研究委員会 (確定している委員会のみ記載)

- 1) (北海道支部) 北海道におけるコンクリート研究の変遷調査研究委員会
(平成 24-25 年度)
- 2) (北海道支部) 鉄筋コンクリート構造物のモデルコード研究委員会 (平成 24-25 年度)
- 3) (北海道支部) 積雪寒冷地の既存コンクリート構造物に適用する非破壊・微破壊試験方法研究委員会 (平成 25-26 年度)
- 4) (四国支部) コンクリートの強度に及ぼす養生条件に関する研究委員会
(平成 24-25 年度)
- 5) (四国支部) 鉄筋コンクリート造耐震壁の開口の取り扱いに関する研究委員会
(平成 24-25 年度)
- 6) (四国支部) 四国の生コン技術力活性化委員会 (平成 24-25 年度)
- 7) (九州支部) 温暖化環境下におけるコンクリート施工品質の確保に関する研究専門委員会
(平成 25-26 年度)
- 8) (九州支部) コンクリート構造物の劣化実態の評価分析研究専門委員会
(平成 25-26 年度)

○継続する研究専門委員会の計画

(1-A-1) JCI-TC115FS ASR 診断の現状とあるべき姿研究委員会 (平成 23-25 年度)

2012 年 12 月に開催した「ASR をどこまで抑制すべきか」に関するシンポジウムでの意見をふまえ、最終年度の活動を 3 つの WG を設けて実施する。

診断フローWG では、理想的な ASR 診断のフローとあわせて実務者の目的に応じた診断フローを提案する。ASR により劣化した実構造物の共通診断を行う。最新情報 WG では、2012 年 5 月に開催された AAR に関する国際会議の成果を中心にレビューし、ASR 診断における岩石学的評価の導入を提案する。抑制対策 WG では、ASR により劣化した実構造物の診断事例を集め、海外の抑制対策のレビューを行い、抑制対策のあり方を提案する。

(1-A-2) JCI-TC121A コンクリート分野における海水の有効利用に関する研究委員会

(平成 24-25 年度)

平成 24 年度の活動を受けて、海水を利用したコンクリートの事例収集や実構造物（プレパックドコンクリート製の防波堤などを予定）・長期曝露試験体（27 年実環境曝露試験体を含む）の調査・分析を実施するとともに、海水の利用がコンクリート部材の耐久性に及ぼす影響を実験や寿命予測に基づき把握する。また、海水を用いることによるコンクリートの性能向上および施工の効率性・経済性の向上に関する評価を行い、海水利用促進に

つながる特長および留意点を整理する。最終的な成果として、コンクリート分野における海水の有効利用方法の提案を行う。

(1-A-3) JCI-TC122A コンクリート工学分野における研究史の編纂と研究手法の体系化研究委員会

(平成 24-25 年度)

本委員会の目的は、先達が残した研究の系譜を克明に辿り、論文には直接的に表れてこない研究に対する姿勢、目的を達成するための方法論を整理・体系化することにある。これを通して、コンクリート工学分野における研究の変遷史を作成するとともに、先達の研究の方法論を抽出し、その歴史的背景の理解や、他分野との比較分析を行うことにより、今後の新たな研究手法の可能性を次の方法により模索する。

- ① コンクリート工学の材料・構造分野における研究の歴史を文献資料をもとに編纂する。
- ② 先導的研究を対象に、文献調査だけでなく、当時の関係者へのヒヤリング等を中心として、特に論文などには表れていない当時の研究の背景、研究のきっかけおよび研究プロセスなどを中心に整理・体系化する。
- ③ 研究委員会の成果の一部を「コンクリート工学」の誌面で紹介する。

(1-A-4) JCI-TC123A コンクリートのトレーサビリティ確保技術に関する研究委員会

(平成 24-25 年度)

本委員会はコンクリートの製造から施工、維持管理に至るトレーサビリティ確保の実現に向けて、次の①～⑤の研究を行い、個々のコンクリートに識別記号を付与し、それに対応した履歴情報を記録・管理する技術のあり方を昨年度に引き続き検討する。その成果として、コンクリートにおけるトレーサビリティシステムのあり方を提示する。

- ① コンクリートのトレーサビリティ確保に関する現状技術と実施例の調査・整理
- ② 個々のコンクリートに識別記号を付与する技術の検討
- ③ コンクリートの製造・施工過程において記録・管理すべき履歴情報の整理
- ④ 履歴情報と識別記号をリンクさせたトレーサビリティシステムの試作
- ⑤ 上記トレーサビリティシステムの試行実験

(1-A-5) JCI-TC124A 放射性物質の封じ込めとコンクリート材料の安全利用調査研究委員会

(平成 24-25 年度)

WG1（発電所からの漏洩防止）では、コンクリートの損傷の程度と性状変化を評価するとともに放射性物質の漏洩との関連を考察し、中長期的な放射性物質の漏洩防止方法の検討を行う。WG2（汚染物質の低減）と WG3（汚染物質の封じ込め）では、引き続き関連情報の収集とコンクリート材料の視点からの課題の分析を行い、放射性汚染物質の適切な処理や処分に向けて必要となる情報の整理を行う。WG4（再利用技術 WG）では、低汚染コンクリートがらあるいは廃棄コンクリートがら、コンクリート材料などの再利用の方法や用途などについて検討し学会として相応しい成果を纏める。

(1-A-6) JCI-TC125FS コンクリート構造物のインフラドック構築フェージビリティ調査

研究委員会

(平成 24-26 年度)

海外通信委員 (C.Grosse 氏および M.C.Forde 氏) との連携に基づいて、平成 25 年 9 月 17 日-18 日に熊本市にて開催される国際集会 6th Kumamoto International Workshop on Acoustic Emission, Fracture and NDE in Concrete - KIFA-6 に協力する。本委員会ではこれらの成果に基づいて以下の検討を行う。WG1 (欠陥評価委手法検討) の活動では資料の収集・検討により、WG2 (現場検査手順の確立) でのセットメニューの作成に役立つ整理を行う。このようなセットメニューの設定と WG3 (検査制度の確立と診断士活用) とでのインフラドック制度の提案とどのようにコンクリート診断士を組み込むかを検討する。

(1-A-7) JCI-TC126C フライアッシュと細骨材を事前混合したコンクリート用材料の品質

基準および使用方法に関する研究委員会

(平成 24-26 年度)

本研究委員会は、フライアッシュと細骨材を事前混合したコンクリート用材料 (以下、F A サンド) の製造方法およびこれを使用するコンクリートの諸性質に関して調査・研究を行い、F A サンドの品質基準および使用基準等を作成することにより、フライアッシュの有効利用に大きく貢献することを目的としている。

本年度は、これまでの委員会での議論内容を受けて、貯蔵期間、取扱いなど、F A サンドをレディーミクストコンクリートに使用する際の懸案事項について具体的実験計画を立案し実行する。

○新規の研究専門委員会の計画

(1-B-1) JCI-TC131A 性能設計対応型ポーラスコンクリートの施工標準と品質保証体制の

確立研究委員会

(平成 25-26 年度)

ポーラスコンクリートは、環境面のみならず豪雨対策などの防災面でも重要な役割を果たす社会基盤材料となる事が期待されている。しかし、性能設計の基本となる安定的な生産に不可欠な施工標準・品質保証などの規準が整備されておらず、このことがポーラスコンクリートの健全な普及を妨げている。

本委員会は、上記の課題を克服すべく、実務・実用段階で要求される以下に示す課題に重点を置いた研究活動を行う。

- ① 既往の国内外の研究成果と施工実績を調査・再整理し、性能設計のための基礎資料を整備するとともに、喫緊および将来の研究課題を分類・整理する。
- ② 実施工を含めた実験的研究を、委員会として組織的に協働で実施する。
- ③ 我が国におけるポーラスコンクリートの性能設計を実現させるべく、上記の研究成果を踏まえつつ、我が国の技術レベルに適した設計・施工標準 (案) と品質保証システムを提示する。

(1-B-2) JCI-TC132A 混和材を大量使用したコンクリートのアジア地域における有効利用

に関する研究委員会

(平成 25-26 年度)

本委員会は、我が国の土木分野・建築分野およびアジア各国で研究開発が進められてきている「ポルトランドセメントを混和材で大量置換したコンクリート」の実用化を目的とする。

そのために、フライアッシュと高炉スラグ微粉末の技術の現状および当該コンクリートの欧米における実用例について調査を行う。その結果を鑑み、アジア地域の気象条件および副産場所を考慮したうえで、コンクリート構造物の種類・要求性能に応じた有効利用方策について検討、当該コンクリートの利用ガイドラインの策定に資する資料整備する。

(1-B-3) JCI-TC133A コンクリートの技術基準に関する情報活用手法研究委員会

(平成 25-26 年度)

本委員会は、JIS、国際規格および国内の仕様書等における規定の内容と、それぞれの関連性について整理を行うとともに、コンクリートの技術基準（試験方法、品質基準、使用規準）に関する情報活用手法の構築について検討することを目的とする。

具体的には、①過去の委員会（TC095A）での調査対象範囲の拡大および②コンクリートおよび RC 構造物に関する仕様書類の制定・改定経緯調査を行い JIS 等の引用・規定内容の考え方の整理 を行い、活用法を検討する。

(1-B-4) JCI-TC134A 物理化学的解釈に基づく電気化学的計測手法の体系化に関する研究委員会

(平成 25-26 年度)

本委員会は、各種電気化学的計測手法をコンクリート構造物に適用する際に考慮すべき物理化学的理論を体系的に整理するとともに、実測結果に基づくケーススタディを通じた議論から、信頼性の高い測定の実施とその解釈方法に関するノウハウなど、実務において有益な資料をとりまとめることを目的とする。

鋼材とその保護層（コンクリートおよび補修材料）を対象とし、材料種、配合、環境等が保護層の鉄筋保護性能に及ぼす影響、保護層材料および環境（鋼材および保護層の周辺環境）等が鋼材の電気化学的計測結果に及ぼす影響などを整理する。

○技術委員会所管の委員会の計画

(2-1) コンクリート基本技術調査委員会

コンクリートに関する基本技術として「打込み・締固め」、「細骨材品質」、「配合・調合」、「圧送」、「養生」および「不具合補修」の 6 WG において基本技術を整理し、技術者に有用な情報を会誌、HP を通じて発信する予定である。打込み・締固め WG では、基本と応用技術の要点をまとめ、細骨材品質 WG では共通試験を実施し、その評価方法を取りまとめる予定である。また、配合・調合 WG では、これまでの得られた成果を会誌に掲載する予定である。

(2-2) マスコンクリートソフト作成委員会

JCMAC1, JCMAC2 および温度応力に加えて、湿気移動を考慮した乾燥収縮、自己収縮を考慮した応力解析ソフト JCMAC3 のバージョンアップ、サポートおよび普及を図るため、以下

の活動を行う予定である。① JCMAC3 のバージョンアップ(JCMAC-U の開発, パイプ (水, ならびに気体) クーリング解析の高精度化, 温度および乾燥収縮ひび割れを考慮した耐荷力の解析, 温度および収縮に伴う支保工の影響を考慮, 支保工施工時の拘束度の解析)とサポート, ②NewJCMAC12(仮称)の検証, リリース, サポート, ③JCMAC3 講習会(2 回開催), ④ JCMAC1 および JCMAC 2 のサポート, ⑤JCMAC3 の英語版とマニュアルの作成, ⑥JCMAC の関連ソフトの普及活動

(2-3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会

本委員会では, 「コンクリート構造物の長期性能シミュレーションプログラムソフト「LECCA シリーズ」の開発を主たる目的として活動を行っている。このなかで, 平成 25 年度には, 平成 26 年 6 月を目途に本シリーズの新たなバージョンである LECCA.3 をリリースすることを目標として, 活動を行う。なお, LECCA.3 の基本コンセプトには, ①環境外力による橋梁劣化部位の 2 次元および 3 次元での特定が可能, ②3 次元構造体における劣化進行過程の予測が可能, ③補修材料・工法の性能の精度の高い定量評価が可能, ④劣化した構造物の構造解析へ利用できるアウトプット情報の提供, 等が含まれる。

なお, 既に市販している「LECCA.1」, 「LECCA.2」ならびに「LECCA.2 Lite」に対するユーザーからクレーム対応も引き続き行う。

(2-4) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂調査委員会

以下の調査研究を行う。①物性試験の実施, その結果に基づいて自己収縮予測式の高精度化, 膨張コンクリートの膨張予測式の高精度化および断熱温度上昇予測式の他モデルとの比較検討などを行う。②800 ケースの解析結果に基づいて, 新しい温度ひび割れ指数簡易評価式の提案, 現行式との比較検討を行う。③DEF の再現実験を行うとともに, 国内外の DEF による実構造物の被害状況の整理, 対策法の取り纏めを行う。④海外における温度ひび割れ制御の実情, 関連規定の整理を行い, 諸外国のデータに基づいて断熱温度上昇式などの評価式を作成する。⑤構造物中での計測方法, 材料, 試験方法, 検査方法の国際規格の調査を行い, JIS 規格との対応を整理する。⑥これらの成果を, 成果報告書に取り纏める。

(2-5) 既存コンクリート構造物の性能評価指針作成委員会

前年度までに作成した指針(案)への JCI 標準化委員会の査読結果に対する必要な修正を行い, 既存コンクリート構造物の性能評価に関する JCI 指針を作成し, 講習会を実施する。

(2-6) サステナビリティ委員会

平成 24 年度に引き続き, 認証登録検討 WG、教科書検討 WG、評価ツール検討 WG、評価指標検討 WG、及びサステナビリティフォーラムで活動を行う。認証登録検討 WG ではコンクリート関係の材料・製品・技術の認証登録制度の試行を, 教科書検討 WG ではテキストの改定と問題の増補を, 評価ツール検討 WG では評価ツールの完成と試行を, 評価指標検討 WG ではサステナビリティ宣言 8 項目の指標開発を, 及びフォーラムではウェブサイトコンテンツの完成をそれぞれ目指す。なお, 将来の「JCI コンクリート環境士(仮称)」資格制度の

フィージビリティについて検討を行うために、テキストを使った講習会を東京と大阪で実施する。また、フォーラムの今後の展開についても検討する。

2. 標準化事業

標準化委員会所管の委員会

- (1) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会
- (2) ISO/TC71 対応国内委員会
- (3) アジアモデルコード研究委員会
- (4) JCI 規準委員会

(1) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

- 1) 次の JIS の改正に関する審議を継続する。

- JIS A 1111 細骨材の表面水率試験方法
- JIS A 1121 ロサンゼルス試験機による粗骨材のすりへり試験方法
- JIS A 1125 骨材の含水率試験方法及び含水率に基づく表面水率の試験方法
- JIS A 1145 骨材のアルカリシリカ反応試験方法-化学法-
- JIS A 1146 骨材のアルカリシリカ反応試験方法-モルタルバー法-

- 2) 次の JIS の改正の必要性に関して検討を行う。

- JIS A 1127 共鳴振動によるコンクリートの動弾性係数、動せん断係数及び動ポアソン比試験方法
- JIS A 1129-1、-2、-3 モルタル及びコンクリートの長さ変化試験方法
第1部：コンパレータ方法、第2部：コンタクトゲージ方法、
第3部：ダイヤルゲージ方法
- JIS A 1144 フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法
- JIS A 1148 コンクリートの凍結融解試験方法
- JIS A 1149 コンクリートの静弾性係数試験方法
- JIS A 1157 コンクリートの圧縮クリープ試験方法

(2) ISO/TC71 対応国内委員会

- 1) ISO/TC71 および各 SC への参加

2013 年度に予定されている第 20 回 ISO/TC71 総会と各 SC の会合等に、SC 議長および幹事を派遣し、会議の運営を図る。また、コンビーナおよびエキスパートを派遣し、日本としての意見を主張する。

- 2) ISO/TC71 の SC 幹事国および SC 議長業務の遂行

TC71 における、各 SC での次の役割を遂行する。

- ・ SC5 (コンクリートの簡易設計)：コンビーナ
- ・ SC6 (コンクリートの新しい補強材)：議長および幹事
- ・ SC7 (コンクリート構造物の維持および補修)：議長、コンビーナ (維持管理・一

般原則、および耐震評価)

- ・ SC8 (コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント) : 議長および幹事

3) 各種 ISO/TC71 からの各種提案への対応

国内関係機関と連携し、ISO/TC71 から提案される各種規格案等の投票に対応する。

4) 日本からの ISO 規格提案

①日本から提案した次の ISO 規格案について早期の規格化を図る。

- ・ ISO DIS (Draft International Standard) 14484 FRP 材を用いたコンクリート構造物の設計のためのガイドライン
- ・ ISO DIS 16311-1 コンクリート構造物のメンテナンスおよび修復-第一部 一般原則
- ・ ISO CD 13315-2 コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント 第2部: システム境界とインベントリーデータ
- ・ ISO NP 16771 コンクリート構造物の耐震評価及び補修ガイドライン
- ・ ISO NP 18047 プレストレストコンクリート水道タンクの簡易設計法
- ・ ISO NP 18389 FRP によるコンクリートの補強—FRP シートの仕様

②次の各項目を ISO/TC71 へ新たに提案する。

- ・ コンクリート及びコンクリート構造物の環境マネジメント
- ・ 壁式建築物の簡易耐震設計ガイドライン
- ・ 繊維補強材料の試験法

(3) アジアモデルコード研究委員会

次に示す各項目についてのISO規格化を実現すべく、平成24年度に引き続きISO/TC71国内対応委員会と連携して、アジアモデルコードを基とした検討を鋭意進めていく。

- ① コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント
- ② コンクリートおよびコンクリート構造物の環境ラベリング, ならびに必要関連規格
- ③ コンクリート構造物の耐震診断および耐震補強

(4) JCI 規準委員会

研究委員会等が提案した規準案・指針案に対し、JCI 規準あるいは JCI 指針としての要件を備えているか否かを審議し、ISO、JIS 等の動きを見据えて、必要に応じた調整を行っていく。日本コンクリート工学会規準・指針の制定/改正に関する規定の改正を検討する。

3. 国際化事業

(1) fib Steering Committee に代表委員を派遣する。

4月19日～25日 テルアビブ(イスラエル)、国際委員会担当委員

- (2) ACI Spring Convention に国際委員会等の代表委員を派遣する。
4月14～18日 ミネアポリス (米国)、JCI-ACI Collaboration Committee 委員長および国際委員会 ACI 担当委員
- (3) ACI Fall Convention に国際委員会等の代表委員を派遣する。
9月20～24日 アリゾナ (米国)、国際委員会 ACI 担当委員
- (4) RILEM/TAC 会議に代表委員を派遣する。
2014年3月ごろ パリ (フランス)、国際委員会 RILEM 担当委員
- (5) OWICS (シンガポール) 国際会議の支援を行う。
8月22日～23日 シンガポール
- (6) ACI と協力してジョイントセミナーを行うための準備を行う。
JCI-ACI Collaboration Committee (丸山委員長) を設立して、JCI-ACI のジョイントセミナーの準備を行う。
- (7) ACF (アジアコンクリート連盟) の会長国として国際委員会等の代表委員を派遣するとともに、諸事業活動を積極的に支援する。
 - ・ACF 主催 フォーラム・セミナー (サステナビリティ関係)
2013年秋 (インドネシア)
 - ・ACF Executive Council 会議: 9月 (日本・札幌)
 - ・ACF 技術委員会: 9月 (日本・札幌)
- (8) 第20回 ISO/TC71 総会および各分科会に ISO/TC71 対応国内委員会ならびにアジアモデルコード委員会から委員を派遣する。(開催地・メンバー未定)
- (9) JCI 主催の2つの国際会議の実行委員会を継続する。
 - ① ICCS13 (1st International Conference on Concrete Sustainability) 実行委員会
会議開催日: 5月27日～29日、場所: 東京
 - ② SCMT3 (3rd International Conference on Sustainable Construction Materials and Technologies) 実行委員会
会議開催日: 8月19日～21日、場所: 京都

4. 受託研究業務

- (1) 昨年度に引き続き、コンクリート構造物の被災低減・早期復旧に関する国際標準の開発を目的とした受託研究業務を、ISO/TC71 対応国内委員会とアジアモデルコード委員会との連携により実施する。
- (2) 昨年度に引き続き、フライアッシュと細骨材を事前混合したコンクリート用材料の品質基準および使用方法に関する受託研究を実施する。

5. 出版事業

下記の出版物を刊行する。

- (1) 第 46 回コンクリート技術講習会テキスト「コンクリート技術の要点'13」
- (2) 平成 25 年度コンクリート技士研修テキスト
- (3) コンクリート診断士講習会テキスト「コンクリート診断技術 '14」
- (4) Journal of Advanced Concrete Technology
英文ジャーナル “Journal of Advanced Concrete Technology” を毎月オンラインジャーナルにて公開する。
- (5) コンクリート工学年次論文集 第 35 巻 2013 年 (CD-ROM 版)
- (6) Technical Committee Reports 2013 (JCI 研究委員会報告書要旨)
- (7) 次の研究報告書を刊行する。
 - 1) コンクリート構造物のひび割れ進展評価手法に関する研究委員会報告書
 - 2) 鉄筋腐食したコンクリート構造物の構造・耐久性能評価の体系化研究委員会報告書
 - 3) 混和材積極利用によるコンクリート性能への影響評価と施工に関する研究委員会報告書
 - 4) データベースを核としたコンクリート構造物の品質確保に関するシンポジウム委員会報告書論文集

6. 会誌発行事業

(1) 会誌「コンクリート工学」

月刊「コンクリート工学」を毎月 1 回刊行して会員に頒布する。

特集テーマは次のとおりである。

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1) 暑中コンクリート | 平成 25 年 5 月号 |
| 2) 我が国のコンクリートの研究史と技術の発展 | 平成 25 年 9 月号 |
| 3) (未定) | 平成 26 年 1 月号 |

また、会員には発刊 1 年後に電子公開し、非会員には 3 年後に電子公開する。

(2) コンクリート工学論文集

コンクリート工学論文集をオンラインジャーナルにて公開する。

7. 広報事業

(1) 広報活動

公正で開かれた活動を推進するため、本学会の活動状況、運営内容、財務資料等を積極的に公開する。

社会一般に向けた啓蒙活動として、広報普及委員会のもとで JCI ホームページの内容向上を図ると共に、会誌「コンクリート工学」、パンフレット（和文、英文）等により本学会の活動状況等について広報活動を行う。

関連業界紙の記者を交えた記者懇談会を定期的を開催して、本学会の活動状況の広報活

動を行う。

(2) 普及活動

コンクリートのひび割れ調査，補修・補強指針普及委員会をすすめる。

平成 25 年度は，本指針 2013 年度版の英語版の作成および国内講演会等の実施に向けた活動を実施する。また，質問対策や校正については，前年度に引き続き必要に応じた対応を行っていく。具体的には以下の活動を予定している。

- ① 本指針 2013 版に対する質問対策や校正
- ② 本指針 2013 版の英語版の作成
- ③ 国内講習会の実施、および講師派遣要請への対応
- ④ 次期改訂に向けてのアンケート調査の実施および情報収集
- ⑤ 国内・海外事例の情報収集
- ⑥ より使いやすいひび割れ判定ソフトの作成

(3) 電子情報化

電子情報化による JCI の様々な活動へのメリットならびに電子情報の有効利用方法を検討する。また、電子媒体を通じて、広く社会や会員に有用な情報を提供できるように、他委員会との連携を視野に入れて活動する。具体的には以下の活動を予定している。

- ① 各種活動における電子情報の有効利用方法の検討
- ② 会員専用ページのコンテンツの検討
- ③ 既出版物のデジタル化およびデジタルアーカイブによる資料保存の検討
- ④ メールニュースの作成および配信
- ⑤ メールニュースを活用した電子公開後の JCI 発行物の情報発信に関する議論
- ⑥ ホームページ（学会、研究委員会等）作成支援
- ⑦ デジタルアーカイブやリアルタイム動画配信による、時間的、地理的な制約を超えた資料提供に関する議論

(4) JCI 創立 50 周年記念事業

2015 年 7 月に JCI 設立 50 周年記念事業を実施する。JCI 創立 50 周年記念事業実行委員会にて具体的な当該記念事業の実施内容の決定および準備作業を行う。

8. 特別委員会

(1) 東日本大震災に関する特別委員会

平成 23、24 年度の 2 年間の活動成果を 4 月、5 月に開催される報告会で公表する。また、当該委員会から提案する第二次提言に関する記者発表会を実施して、成果の広報を図る。

(2) 新規の特別委員会

コンクリート構造物の維持管理が急務となる世間状況を鑑み、コンクリート構造物の

維持管理、補修工法に関する技術の調査・研究を行う「(仮称) コンクリート構造物の維持管理と補修技術」と題する2年間の特別委員会を設立する。関連技術の集大成を行い、報告書の作成を行う。

震災対応の一環として、がれきの有効利用およびJIS規格外の有効利用を目指した「(仮称) JIS 規格外品の利用に関するF S委員会」と題する1年間の特別委員会を設立し、関連の技術に関して調査・研究を行う。

[公2 講演会等事業]

1. 年次大会事業

コンクリート年次大会2013(名古屋)を7月9日(火)～11日(木)の3日間、名古屋市の名古屋国際会議場で開催する。

- 1) 第35回コンクリート工学講演会
- 2) 特別講演会：演題「現代社会と科学」
講師 益川敏英氏(名古屋大学特別教授、素粒子宇宙起源研究機構長、
京都大学名誉教授、ノーベル賞受賞)
- 3) 生コンセミナー：「コンクリート構造物の信頼性向上への提言
～打込み時スランプおよび生コンのグレード分け～」
- 4) 見学会：①中部電力(株)浜岡原子力発電所及び津波対策工事現場
②名古屋高速道路公社交通管制室とネクス・プラザおよび博物館明治村
③中日本高速道路(株) 新東名高速道路建設現場
- 5) コンクリート工学会賞受賞者による講演
- 6) 懇親会：ANAクラウンプラザグランコート名古屋

2. 講演会、講習会、シンポジウム等

(1) コンクリート技術講習会

第46回コンクリート技術講習会を2日間の会期で、10月に東京など全国主要都市において開催する。

(2) シンポジウム・セミナー・講演講習会

研究委員会報告会、シンポジウム等を次の通り開催する。

- 1) 「東日本大震災に関する特別委員会報告会」
日 時：4月24日(水)
場 所：東京会場、品川区立総合区民会館“きゅりあん”小ホール
日 時：5月8日(水)
場 所：大阪会場、大阪科学技術センター 401会議室
- 2) 「サステナビリティ委員会・コンクリートの環境側面に関する講習会」

日 時：6月11日（火）

会 場：東京大学弥生記念館

日 時：6月13日（木）

場 所：チサンホテル新大阪

3) 「データベースを核としたコンクリート構造物の品質確保に関する研究委員会報告会」
（仮称）

日 時：9月10日

場 所：東京

4) 「コンクリート構造物のひび割れ進展評価手法に関する研究委員会」報告会（仮称）

日 時：未定

場 所：未定

5) 「鉄筋腐食したコンクリート構造物の構造・耐久性能評価の体系化研究委員会」シンポジウム

日 時：11月

場 所：東京

6) 「混和材積極利用によるコンクリート性能への影響評価と施工に関する研究委員会」報告会

日 時：8月

場 所：東京・大阪

7) (北海道支部) 「既存コンクリート構造物の構造特性把握技術の現状調査研究委員会報告会」

日 時：5月13日

場 所：北海道大学学术交流会館

8) (関東支部) 支部総会特別講演会

① 演 題：「コンクリート舗装に関する最近の動向と技術的課題」

日 時：5月10日

場 所：全国町村会館

講演者：梶尾聡氏（太平洋セメント株）

② 演 題：「首都高速道路の構造物の現況と長寿命化への取り組み」

日 時：5月10日

場 所：全国町村会館

講演者：中村好伸氏（首都高速道路株）

9) (中部支部) 北陸道路研究会60周年記念シンポジウム

主 催：北陸道路研究会

共 催：日本コンクリート工学会中部支部

演 題：「コンクリート橋の維持管理とASRによる劣化問題の解決策」

日 時：9月20日（金）午後0時50分から午後4時10分

場 所：KKR ホテル金沢 鳳凰 A

講演者：（株）太平洋コンサルタント 広野真一氏、（独）土木研究所 古賀裕久氏、木村嘉富氏、（株）ピーエス三菱 鈴木雅博氏

10) (中部支部)

演 題：「新時代を迎えた高速道路を支える技術の現状と今後の展望―道を通じて感動を人へ、世界へ―」

日 時：10月頃

場 所：名古屋大学 ES 館 ES ホール（名古屋市千種区不老町）

講演者：中日本高速道路(株) 和田 宣史 氏

中日本高速技術マーケティング(株) 上東泰 氏

11) (近畿支部) 特別講演会

演 題：「阿倍野ハルカスについて（仮）」

日 時：5月14日（火）

場 所：大阪科学技術センター

12) (近畿支部) セメント・コンクリート関西発表会 2013

コンクリート研究会80周年記念講演会(共催：コンクリート研究会)

日 時：11月頃

場 所：建設交流会館グリーンホール

13) (中国支部) 特別講演会「バーチャルリアリティを援用した橋梁目視点検支援システムの開発と利用」

日 時：5月15日 16:10～17:10

場 所：広島工業大学広島校舎（201室）（広島市）

講演者：宮本文穂教授（山口大学）

14) (中国支部) 研究委員会報告会

日 時：5月15日 14:40～16:00

場 所：広島工業大学広島校舎（201室）（広島市）

① 演 題：「打設管理記録に基づくコンクリート構造物の品質確保に関する研究委員会」

講演者：田村隆弘教授（徳山工業高等専門学校）

② 演 題：「ごみ熔融スラグの構造用コンクリートへの活用調査研究委員会報告」

講演者：佐藤良一教授（広島大学）

③ 演 題：「低強度コンクリートに関する特別研究委員会」

講演者：南宏一名誉教授（福山大学）

15) (中国支部)

演 題：「低強度コンクリートに関する特別研究委員会」

日 時： 6月22日（土）

場 所：広島

講演者：南宏一名誉教授（福山大学）

16) (中国支部)「ごみ溶融スラグの構造用コンクリートへの活用調査研究委員会報告」

日 時： 6月25日（火）10:30～17:20

場 所：広島

講演者：佐藤良一教授（広島大学）

17) (中国支部)

演 題：「チェルノブイリ原子力発電所事故におけるコンクリート構造物の損傷分析」

日 時： 6月12日（水）15:00～16:50

場 所：広島工業大学

講演者：青柳征夫（元電力中央研究所）

18) (四国支部) 特別講演会

日 時： 4月12日(金) 16:30～17:30

場 所：サンポートホール高松 62会議室

講演者：國島正彦（高知工科大学システム工学群 教授）

19) (九州支部)「コンクリート構造物における劣化実態の評価分析に関する」講習会

日 時：9月25日（水）

場 所：アクロス福岡 大会議室

3. 国際会議、国際シンポジウム等

(1) 1st International Conference on Concrete Sustainability(ICCS13) を開催する。

2013年5月27日～29日（東京）

(2) 3rd International Conference on Sustainable Construction Materials and Technologies(SCMT3)を開催する。

2013年8月19日～21日（京都）

[公 3 表彰事業]

1. 学会賞

以下の5つの学会賞を贈り表彰する。

(1) 本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する学術・技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文を対象に、その著者に対し、「日本コンクリート工学会賞（論文賞）」を贈り表彰する。

(2) 本学会刊行物に発表された論文あるいは報告等のうち、コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文あるいは報告等を対象に、その著

者に対し、「同（技術賞）」を贈り表彰する。

- (3) 本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する独創性、萌芽性および将来性のある優れた論文を対象に40歳未満の著者に「同（奨励賞）」を贈り表彰する。
- (4) コンクリート構造物の美的価値、創造性および環境との調和において技術面も含めて優れている造形物を対象にその構築に貢献した者に「同（作品賞）」を贈り表彰する。
- (5) 本学会事業の発展のために、長年にわたり顕著な貢献のあった会員に「同（功労賞）」を贈り表彰する。

2. 支部表彰

- (1) コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をなした中国支部所属の個人を対象に「コンクリートマイスター認定者」とする。（中国支部）
- (2) 支部功績賞、支部優秀学生賞を表彰する。（北海道支部）
- (3) 日本コンクリート工学会東北支部表彰規約（内規）に基づき、論文賞・技術賞・功労賞・奨励賞・作品賞の対象者を募集し、優秀な作品や功績のあった会員に対して表彰する。（東北支部）
- (4) 九州・沖縄地区の大学、大学院、高等専門学校において、コンクリートに関する優れた研究成果を上げた卒業生、修了生に支部長賞を与える。（九州支部）

II 収益事業

[収1 資格付与事業]

1. コンクリート技士・同主任技士資格制度事業

(1) コンクリート技士・同主任技士試験

コンクリート技士、同主任技士試験を11月24日（日）、全国9都市において実施する。

本年度から主任技士の口述試験は廃止する。そのかわり、小論文で、実務経験を踏まえた内容を問うことにする。

(2) コンクリート技士・同主任技士の登録

コンクリート技士制度に基づいて、コンクリート技士、同主任技士試験合格者の登録、ならびに登録有効期間（4年間）満了となる資格者の申請により更新登録を行う。

(3) コンクリート技士研修

コンクリート技士制度に基づくコンクリート技士研修を、登録有効期間（4年間）満了となるコンクリート技士資格者および未登録者を対象として、7月1日（月）から8月23日（金）

にかけて、全国 18 都市 33 会場において実施する。

2. コンクリート診断士資格制度事業

(1) コンクリート診断士講習会

コンクリート診断士講習会を 2 日間の会期で、4 月 1 日（月）から 4 月 26 日（金）にかけて、全国 9 都市 13 会場において実施する。

(2) コンクリート診断士試験

コンクリート診断士試験を 7 月 21 日（日）、全国 9 都市において実施する。

(3) コンクリート診断士の登録

コンクリート診断士制度に基づいて、コンクリート診断士試験合格者の登録、ならびに登録有効期間（4 年間）満了となる資格者の申請により更新登録を行う。

(4) コンクリート診断士研修

コンクリート診断士制度に基づくコンクリート診断士研修を、登録有効期間（4 年間）満了となるコンクリート診断士資格者および未登録者を対象として、コンクリート診断士研修を 10 月に全国 7 都市 9 会場において実施する。

[収 2 その他の収益事業]

1. コンクリートテクノプラザ 2013

コンクリート工学年次大会 2013（名古屋）と併行して、コンクリート関連企業および団体により、新製品・新技術等の紹介と情報交換を行う。

Ⅲ その他

1. 名誉会員の推挙

定款第 12 条に基づき、本学会の目的達成に多大な貢献をした会員等に、別に定める規則により総会の決議を経て、該当する会員に名誉会員の称号を贈る。

2. 長期財政安定化委員会

昨年度に引き続き、本学会の長期的な健全な収支状況を確保するために必要な諸事業の見直し、対策等を検討・答申する。

以上